学校だより

唐津市立加唐小中学校
第１３号
令和３年10月25日発行
文責　校長　宮地　浩幸

学校教育目標

郷土を誇りに思い、未来社会を生き抜く児童生徒の育成

どうしたら元気出ますか？

１０月１２日（火）に、森先生にほんわかタイムでお話をしていただきました。その内容は「森先生の好きなもの」です。森先生はディズニーのキャラクターが好きだそうです。これまで東京ディズニーランドや東京ディズニーシーに何度も足を運んで、有意義な時間を過ごした話をしてくださいました。ところがコロナ禍において、思うように目的の場所へ行けなくなってしまいました。気分が落ち込んでしまい元気を失いかけた時、どうすればそれを克服できるか考えたそうです。そんな時、玄関飾りをディズニーのキャラクターで作ると元気が出たそうです。時間があるときに、自分の好きなことを行うと気分転換になり、次につながる活動になるそうです。今では、出勤する前にその玄関飾りを見れば、「今日も１日頑張ろう。」という気持ちになり、帰宅してそれを見ると「１日よく頑張った。」とホッとできるそうです。そして最後に「ちょっとしたアイディアや工夫で気分を変えることができる。壁にぶつかったら、少し考えて元気がでる行為を見つけて欲しい。」と締めくくられました。

ご家庭では、子ども達は何をやっているときが最も生き生きしているのでしょうか？

小学生の好きな教科、苦手な教科

１０月１３日（水）の高島小学校との合同スピーチでは、苦手な教科と好きな教科の意見交流が行われました。子ども達の率直な意見が出され、指導する側にも大いに参考になる会だと見守ったところです。例えば、算数が苦手と思っている児童の意見は「数字を見て計算を行っていると頭の中がゴチャゴチャになる。時間を決めて計算すると焦る。」というものでした。その典型的な例が「割算のひっ算、小数点がつく掛け算」です。中学校の教員をしていて、小学校の時には計算力は絶対に必要なものだと感じています。理科の学習などでは、計算ができるという前提で内容が深まっていくことが少なくないからです。それでも、このような意見を聞いて、我慢比べのようにひたすら計算の訓練をするというのも算数嫌いを作るだけと反省せねばなりません。一方で算数が好きという児童もいます。問題が解けた時に嬉しいというのがその理由です。子ども達は勉強するときに「わかった」という喜びや満足感でモチベーションが上がると言われます。どの授業もそうですが、基本私たちは子ども達に分かる授業を提供しなければなりません。幸いに児童生徒の数が少ないことを強みとして、一人一人の思いにこたえること

ができる授業を心掛ける機会となりました。
　もう一つ子ども達の意見の中に社会は苦手、理科は好きという意見が多かったようです。その理由として社会は教科書から読み取るのが大変、理科はいろいろなことが分かるというものでした。これを聞いて、最近読んだ教育書に、「社会の教科書や理科の教科書は読み取るのが難しい。」という記載がありました。その理由として、「言葉が難しく、１つの文が長い。構造が複雑で上手く読み取れない。」ということだそうです。つまり、かつて「教科書を読めばわかる」という魔法のような言葉は通じないということです。子ども達が何につまずいているのか、それに気付けるよう私たちは努力し、改善を図る必要があります。ご家庭でも子ども達の学習に対するつぶやきに耳を傾けてください。

手洗い指導

　全国的に新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきました。しかし、ここで気を緩めると第６波がいつ襲ってくるかわかりません。そこで、10 月 14 日（木）に養護教諭の森先生が、手洗い指導を行ってくれました。まず、子ども達は手に特殊な液をまんべんなくつけて、その後、石鹸をつけてしっかり手洗いを行いました。そして特殊なフィルターを通してよく洗ったつもりの手を見てみると、汚れが落ちていないところがはっきりわかります。小学校低学年は完全に落とすのに、かなり苦労しました。上級学年の生徒たちもしっかり洗ったつもりでも、爪の間などにまだ汚れが残っているのが分かりました。しっかり手を洗うということを子ども達は身をもって体験したわけです。今後「しっかり手を洗う」を実践して欲しいものです。

理科研究発表会

　結構前から、子ども達の「理科離れ」が中学校の理科の先生方の間では問題視されています。小学生の時には理科好きの子どもが多いが、だんだん、理科に興味を示さなくなってくる懸念がありました。原因の１つは、中学生くらいになると理科の学習内容がかなり抽象的になってきて、難しくなるということにあるのではないかと考えます。
　先日、今年のノーベル賞（物理学賞）の受賞者に真鍋淑郎さんが選出されました。日本人がノーベル賞を受賞したのは２８人目（そのうち物理学賞は１２名）で、大変誇らしい事です。偉大なノーベル賞の受賞も知的好奇心が基本となっており、本校の子ども達にもぜひ培ってもらいたい素養です。
　そんな中、唐津市の理科研究発表会に本校、中学２年生がエントリーします。その内容は、「食卓を片付ける時に、余った食べ物を器に入れて、ラップをするのだが、器の材質によって、ラップがついたりつかなかったりするので、どうすればラップがうまくつくか。」ということを、いろいろ実験を行い調べた結果を発表します。
　数日間、先生に指導を受けて、発表の内容や発表の仕方を練り直している姿を見ると「理科離れ」などみじんも感じることが無く大変うれしく思います。本校代表としての誇りを持って頑張って欲しいと思います。

季節は一気に変わっています

　２週間ほど前まで真夏日が続いていましたが、一気に秋めいてきました。日暮れもかなり早くなったような気がします。急な気温の変化に体調を壊す児童生徒はいないか心配していましたが、子ども達はいつも元気いっぱい。しかし気を緩めることなく健康管理には十分気を付けてください。